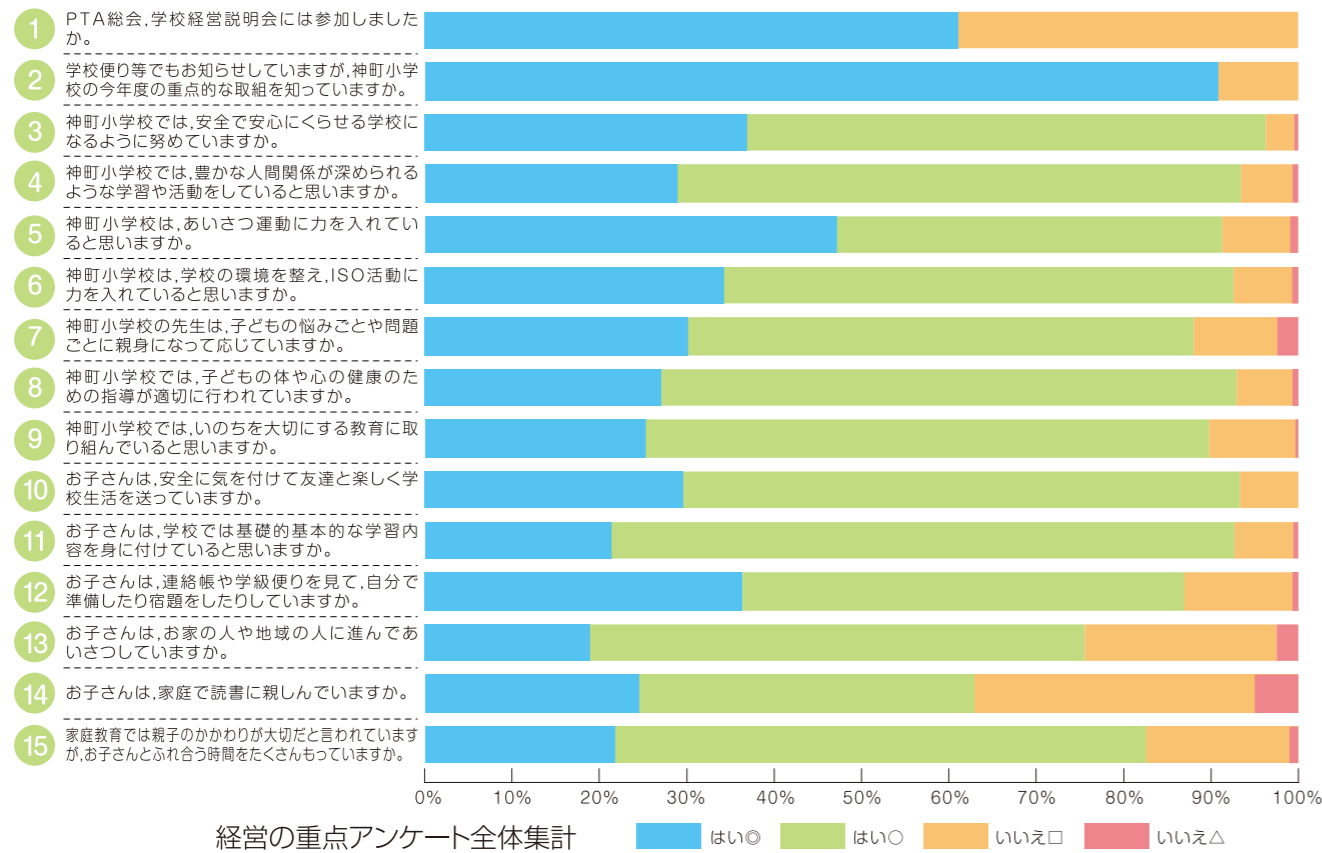


保護者アンケートの集計結果と考察

<集計結果>



◆記述欄から

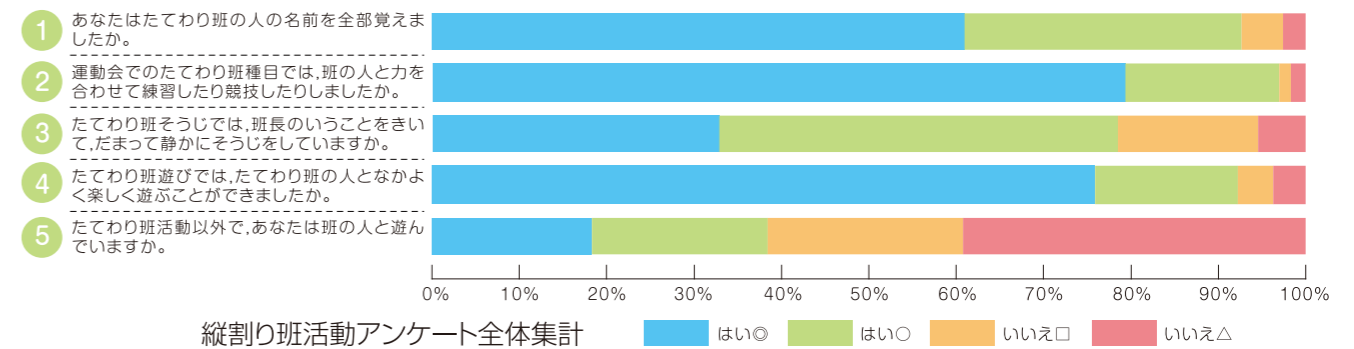
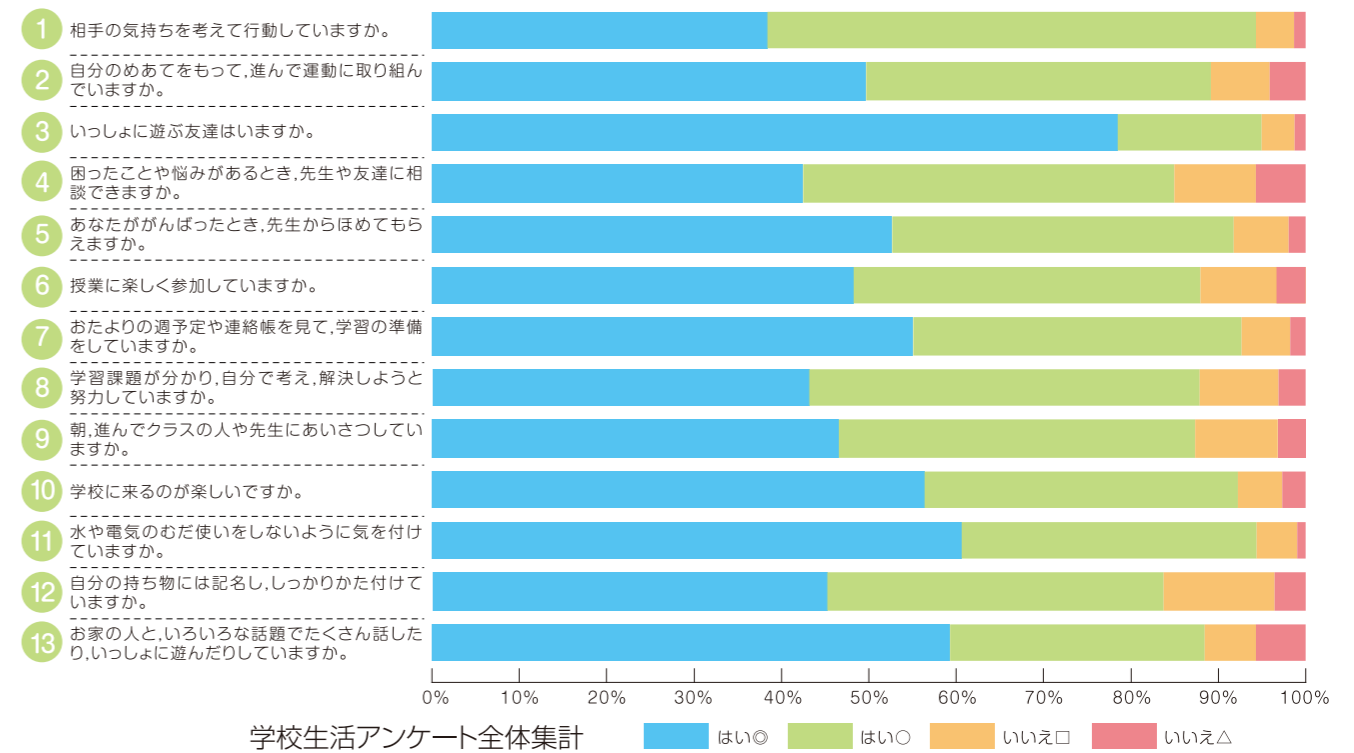
- いじめに結び付くようなことや友達関係など、子どもだけで解決が難しいときにうまく相談にのって指導してほしい。また、子どもたちの様子を学校と保護者で連絡をしっかりと取り合って見守ってほしい。
- 子ども同士の言葉遣いがよくないので、相手を思いやる気持ちをもてるためにも言葉遣いを指導してほしい。
- 食育、読書活動、地域の方や高齢者・障がい者との関わりを学ぶ教育活動等、生き方に関わる教育活動を更に充実してほしい。
- 不審者事案があり、さらに防犯活動に力を入れる必要があると思う。

<分析・考察>

- PTA総会への参加率が昨年より5%増え、全体として6割に到達しました。また、今年度の重点的な取組については、9割の保護者の方が認知してくださっています。PTA総会資料、学校だより等の配布物によく目を通していると思われる。
- 子どもの悩みごとについて親身になって応じていると回答した方が昨年度の9割から5%ほど減っており、記述欄にも「いじめ・友達関係・言葉遣い」などへのしっかりとした対応を望む声が多かったです。ご意見を真摯に受け止め、対応の改善を図っていく必要があると考えます。
- 「豊かな人間関係が深められるような学習や活動をしていると思う」と回答した方の割合は9割強でしたが、読書に親しんでいる割合は6割程度であり、生涯学習の視点からも読書活動を更に重視していく必要があると考えます。
- 重点課題でもある「あいさつ」については、力を入れていると感じている方が9割で、学校として努力していることを評価していただいているようです。ただ「家や地域での進んでのあいさつ」は、7割強とやや低くなるので、あいさつの日常化を図っていききたいと思います。

児童アンケート(学校生活・縦割り班活動)の集計結果と考察

<集計結果>



<分析・考察>

- 学校生活アンケートで課題となるのが、「悩みごとを先生や友達に相談できない」と「持ち物への記名と後片付けがしっかりできない」子どもが、全体で各々15%ほどもいることでした。「悩みごとを先生や友達に相談できない」でいる子どもが多いのは、学年によってかなりばらつきがありました。該当する学年については、教師と子ども、子ども同士の信頼関係づくりを一層進めていくことを確認しているところです。また、持ち物の記名と後片付けについては、学校と家庭が連携して頑張っていきたいものです。
- 昨年度課題だった「めあてをもって進んで運動」については、5%もの向上がみられました。今年度の重点の一つとして取り組んできた「体力の向上」対策の成果のあらわれととらえています。
- 「授業に楽しく参加している」と回答した子どもが、昨年度より3%ほど減っています。子どもの興味・関心が持続するような授業づくり、子どもが活躍できる授業づくりを今後とも努めていきます。
- 全部の項目にわたり、△印の回答がみられます。「一人一人が大事にされる学校」をめざすためにも、子どもの実態をきちんと把握し、きめ細かに対応していく必要があると考えます。
- 縦割り班活動では、分離後、年を重ねるごとに班内での結び付きが強くなっているようです。縦割り遊びや掃除でのよりよい関係が日常生活にもっと波及するようにしたいものです。